

☆7月の例会は休止しました。 8月は暑さを避けて夏休みです。

◎506回（9月）再開の予定です。コースは下見済み、「北・山辺の道（奈良）」です。
会員の方の多くはワクチンの2回接種も済み、中には体力維持のため自宅周辺の散歩を意欲的に続けている方も。「今はとにかくガマンガマン」。9月の再開を心待ちにされているそうです。コロナの収束を祈るばかりです。

☆燦歩会8月のアルバムから （500回の軌跡の中から随時掲載します）



2015年8月23日

中山道

醒井（さめがい）宿

地藏川の清流に咲く梅花藻。
中央に赤く見えるのは
百日紅の花びらです。



2016年8月28日 伊吹山頂は雨で濃霧、下界に降りると関ヶ原では快晴でした。

☆年度後半の予定

- 10月 世界遺産 五つの眺望 明神山に登る（奈良）
- 11月 京都トレイル第5回（延暦寺～寺戸）（京都）
- 12月 納会（大阪）
- 1月 大阪空港一周 大迫力の離着陸を間近に眺める（大阪・兵庫）
- 2月 秀吉の通った京街道（高麗橋～守口）（大阪）
- 3月 灘五郷酒蔵めぐり（兵庫）

毎月第4日曜日開催です。旧友会員の方、職員の方、御参加をお待ちします。

連絡先 山村恵一 090-1484-4403、y-yamamura@ares.eonet.ne.jp

☆蛇足の燦歩 相楽神社（さがなかじんじゃ）へ

いつも燦歩会のレポートの末尾に、書かずもがなの「蛇足」を書いている者です。毎月の燦歩会もままならず、再開を信じて日々の散歩で備えるばかりですが、その中で折々目に触れた事を記します。題して「蛇足の燦歩」です。



私の住処は奈良市の最北部で、京都府の木津川市に接しています。府県境に、高さ3m近いこんな石の標柱が立っています。大正8（1919）年に建てられたもので、北から来る人に、「是より南 大和の国、是より南 奈良県管轄」と報せています。

今回のテーマは、「相楽」です。京都府には相楽郡という郡があり、府の最南部の3つの町、1つの村が含まれています。郡名の読み方は「そうらく」です。「あいたのしむ」良い地名ですね。



ところが、道筋の信号標識には「Saganakadai」とあります。「相楽台」と書いて「さがなかだい」と読むのです。

実はここから北の一带の字名が、「相楽」と書いて「さがなか」で、新しく開かれたニュータウンの地名も「さがなかだい」になったのです。

確かに「相模国」は「さがみ」ですし、幕末の志士「相楽総三」は「さがらそうそう」ですから、「さが」までは分かるのですが、その後の「なか」が分かりません。ただ何やら由緒ありげな地名であることは確かです。



北へしばらく進むと、みごとな松の大木が、まるで一里塚のように立っています。下に祠もあります。



樹下の碑文台座の文字は、読みにくいのですが、左から **社木懸** と見えます。

「懸木社」は「さがりきのやしろ」と読んで、哀しい物語が伝えられているそうです。諸説があって定かでないのですが、エッセンスはこんな風です。垂仁天皇の許に4人の姫が召し上げられますが、“美しくない”とされた姫が里に帰される事になります。悲観した姫はこの地で木の枝に懸って死のうとします。幸い未遂に終わったのですが、この地は「懸木（さがりき）」と呼ばれるようになり、それが転じて「相楽（さがらか）」の地名の元になったというのです。

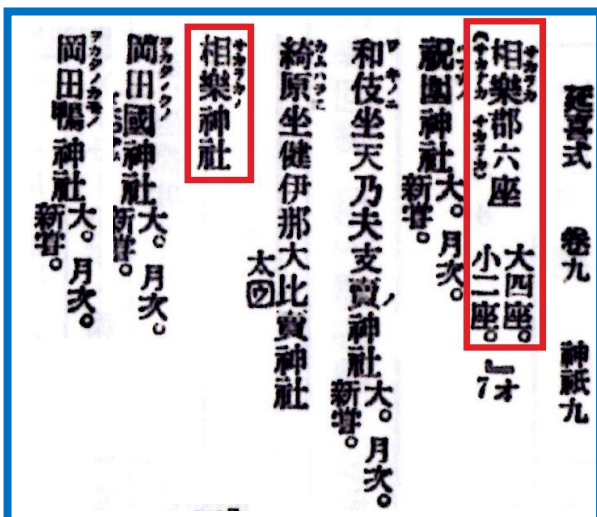


田園地帯を北に進みます。水田からは既に水が抜かれ、土用干しが進んでいるようです。土が乾き、ヒビが入り始めています。イチジクの畑では、実が大きくなっています。出荷されるのも間もなくの事でしょう。

歩く事およそ3 km、目的地の相楽神社（さがなかじんじゃ）に着きました。静かな森の中、相楽地区の産土神です。本殿は檜皮葺で細部の彩りも美しく、室町時代初期の建築として、国の重要文化財に指定されています。



この神社は、江戸時代までは八幡神社と呼ばれていましたが、明治10年に「相楽神社」と呼ばれる事になりました。平安時代の神社リスト、「延喜式神名帳（えんぎしきじんみょうちょう）」にある「相楽神社」がここだという事になったのです。神名帳の相楽郡の項には、6座の神社が記されていますが、その中に「相楽神社」が見られます。



写真の活字本の「延喜式」では、印刷が古く読みにくいのですが、郡名には「サガラカ」と「サガナカ」のフリガナが見られます。（赤枠）「楽」が「ラカ」と読まれ、そしていつしか「ナカ」となったという事でしょうか？あるいは「サガラカ 又は ナカ」という地名に「相楽」の字を当てたのでしょうか？「京の難読地名」と云うと、都心のものが紹介されがちですが、「相楽」もなかなか強者ではないでしょうか？

相楽郡、相楽台、相楽神社を巡ったプチ燦歩。帰路は熱中症を避けて、電車とバスを利用して帰宅しました。ちょうど2時間、8,700歩でした。

文・写真 生島（おじま）幸弥